

私の見た日本の大学の国際化

社会科学部研究科博士課程前期経済学専攻二年 楊 慧 君

日本で留学生生活を送って、もうすぐ三年になる私にとって、大学の国際化という呼び掛けはよく聞かれることです。

文部省の資料によると、日本で学んでいる留学生の数は、一九九一年五月一日の時点で、四五、〇六六人にのぼって、一三年前の一九七八年の七・七倍になり、二〇〇〇年までには恐らく十万人という目標に到達するでしょう。過去の二三年間に、日本政府、国立大学、私立大学、民間団体及び企業などは、日本の大学国際化のため、いろいろな努力をはらってきました。入学手続きの簡単化及び各種奨

学金などによって、日本の大学の国際化は順調に進んでいます。このことによって、私たち発展途上国からの留学生にも日本で先進技術と日本の光り輝く文化を勉強するチャンスが与えられました。私の勉強している広島大学でも留学生の数が増え、一九九一年五月には、四九一人になり、国立大学の中で、九番目になりました。大学の国際化は自分の周りでも感じられます。

しかしながら、今の状況で問題はないとは言えないでしょう。まず、統計データから見てみましょう。一九八五年アメリカの教育費総額対GNP比は六・七%、中国は二・七%、フランスは五・八%、日本は五・一%です。また、高等技術人材を育成するための高等教育対教育経常公費の比は、アメリカは三九・四%、中国は二一・八%、カナダは二八・八%に対し、日本では二一・四%になっています。この点から考えて行くと、経済大国である日本の教育、特に高等教育に対する重視の程度は高いとは言えません。さらに、日本の教育費総額対GNP比は、一九八〇年の五・八%から、一九八六年の五・〇%まで下がり、この低下傾向は現在でも続いています。また、一九八〇年ごろの日本の奨学金対教育経常公

中国雲南省昆明市生まれ、一九八八年湖南大学大学院修士課程修了。一年間の研究生生活を経て九一年に広島大学社会科学部研究科に入学、今春修了。

費比は一・二%になり、同時期のイギリス九・一%、カナダ四・六%、中国三・四%と比べると、かなり低いと言えるのではないのでしょうか。

人材資源しかない日本において、奨学金をなかなかもらえない日本人大学院生は、会社に入った同級生と比べて、授業料、学費などと学習期間無収入の損失を合わせると、少なくとも何百万円もの経済損失を受けるとでしょう。さらに、もし博士まで勉強すれば、もっと多くの経済問題がもたらされるでしょう。そして、このことが多くの優秀な日本人大学院の大学院への進学志願を低下させました。

このような現状の下で、途上国からの留学生たちの学習環境はもっと深刻です。多くの留学生は、奨学金をもらえないということが留学で一番不満に思っていること、困っていることだと考えています。毎日生活問題を心配しているならば、勉強もなかなかうまくできないのではないのでしょうか。またほかのものと根の深い問題もあります。四割強ぐらいの留学生は「日本に来て失望している」ということです。(国際交流研究所 日本 一九九二年)

そういう意味で考えて行くと、教育基盤の整備、留学生環境の改善などの問題をもっと真剣に考えるべきではないでしょうか。私たち留学生もそのように希望しています。



留学の間には日本で先進技術を勉強するだけでなく、日本の光り輝く文化も学びたい。留学生たちの茶道勉強会(前列左端)

今日ハバオニイは！你好